

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成 25 年〇月〇日 (〇) 〇校時
 対 象 第6学年 〇組 〇〇名
 学校名 〇〇立〇〇小学校
 授業者 〇〇 〇〇

1 単元名

自分の思いや考えを整理して書こう

「随筆を書こう」 自分を見つめ直して (光村図書6年)

2 単元の目標

自分の出来事や経験の中から書く事柄を選び、他の人に分かるように描写したり、自分の思いや考えを整理して書いたりする学習を通して、自分のものの見方や考え方を見つめ直すことができる。

3 単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	○随筆について知り、自分の経験を振り返ったり、意欲的に書いたりしようとしている。	○随筆という自由な文章様式を知り、自分の経験や考えを整理して書いている。 ○書いた文章を推敲し、他の人にも分かるように書き直したり表現を工夫したりする。	○文章にはいろいろな構成があることに気付き、随筆の文章様式を理解している。
学習活動に即した具体的な評価規準	①文例を読み、随筆の特徴や文章構成を考えようとしている。 ②出来事や自分の経験を振り返って題材を決め、随筆に書こうとしている。 ③書いた文を読み返したり友達と読み合ったりしながら、自分の考えを深めようとしている。	①自分自身を振り返って随筆に書く題材を決めている。 ②組み立て表を作成し、書こうとする文章を想定している。 ③出来事や経験を他の人に分かるように描写したり、自分のものの見方や生き方などに触れて書いたりしている。 ④書いた随筆を読み返したり助言をもらったりして、文章の構成や表現の曖昧さを確認して書き直している。	①随筆の特徴や文章構成、表現の工夫などについて、気付いたことをまとめている。 ②随筆の様式にのっとなって文章を書いている。

4 指導観

(1) 単元観

高学年の「書くこと」の指導目標は、「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。」である。これを受け、本単元では随筆を書くという言語活動を通して以下の指導をする。

〔B 書くこと〕

- イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。
- ウ 事実と感想、意見などと区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。
- オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
- カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

自分の経験や考えを整理して的確に書く力は、生涯にわたって必要不可欠な力である。その力を身に付けるためには、詳しく書くこととそうではないことを整理して書き分けたり、文章の構成や文の分かりやすさ、読み手を引き付けるような表現の効果を考えたりする学習が大切である。さらには自ら繰り返し読み返して推敲し、加筆修正して分かりやすく改善させる推敲の過程が重要である。小学校のまとめの時期にある6年生にとって、自分の文章に責任をもたせる上でも、文を推敲する習慣は身に付けさせたい力の一つである。書き手である自分自身が、今度は読み手の立場になって客観的に自分の文章を評価する学習を計画の中に位置付けていきたい。また友達からのアドバイスも全てを取り入れるのではなく、「確かにその方が読みやすくなる」と客観的に自分の文を分析し、取捨選択できる力も育てていきたい。

◆自分の思いや考えを整理して書くために、本単元で身に付けさせたい力

身に付けさせたい力	児童の学習活動
文章全体の構成をを考えて書く力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文例を読んで、随筆の特徴はどのようなことか確かめる。 ・ 自分のものの見方や考え方を伝えるために、どのようなことをどのように組み立てれば効果的かを考えて書く。
目的に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりする力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の出来事や経験したことを整理し、自分が伝えたいことに関係することに絞って描写する。 ・ 出来事や経験したことが、自分にとってどのような意味や価値があったのかについてふれながら書く。 ・ 相手意識を明確にし、自分の書いた文が読み手に状況を的確に伝えているか考えながら読み返し、推敲する。
表現の効果などを確かめたり工夫したりする力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書いた文章を読み返し、誤字、脱字、文末表現の統一など、チェックリストを基に確認する。 ・ 読み返したり友達から助言をもらったりする中で気付いた、表現の曖昧さや分かりにくさを見付けて書き直す。
表現の仕方について着目して助言し合う力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表記上の誤りや文法の不統一がないか、読みながら確認する。 ・ その随筆で書こうとしたことが伝わっているか、読み手と書き手で確認し合う。 ・ 修正すべき内容があった場合にどう書き表したらよいか、例を挙げながら具体的に助言する。

(2) 教材観

多くの児童にとって随筆を書くという言語活動は、初めての学習である。低学年のときから日記や行事作文など、見聞きした出来事や自分が経験したことについて作文を書くことは多くあった。今回学習する「随筆」も、自分の経験や、見たり聞いたりした出来事を書く点では同じである。しかし随筆は、そのときの思い出や感じたことをただ書き残すだけではなく、そこに自分なりの考えや、自分にとっての意味など自分自身を見つめたり考えを深めたりしたことを書くところに特徴がある。随筆を読むと、書き手の人柄が想像できるのもそのためである。ある出来事に遭遇したときに自分は気に留めなかったことでも、人によって「どうしてだろう、不思議だな。」とか「前にも同じことがあったな」と考えたりすることがある。それは、その人がこれまでどのような経験をしてきたのか、何に興味をもって生活しているのか、といったものの見方や考え方、生き方が深く関係しているからである。随筆を書くことで、自分の価値観を再発見したり、考え方や生き方を見つめ直したりするきっかけになることを願って指導していく。

また本単元で、随筆を書く土台となる「出来事について全く知らない読み手にも分かるように描写する力」も身に付けさせる。出来事を的確に描写できなければ、そこに込められた書き手のものの見方や価値観を読み手に伝えることもできない。「話すように書きなさい」という指導もあるが、それでは話題が広がって文章にまとまりがなくなったり、始めと終わりで整合性がとれなくなったりすることが予想される。将来は、児童が書きながら時に読み手の視点で文章を読み返して推敲できるようにって欲しいが、ここでは友達の文章を読み合う時間を設定し、推敲の仕方を身に付けさせていく。

5 単元の指導計画と評価計画（全6時間／本時は4時間目）

	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	○評価【評価方法】
	「随筆」とはどんな文章なのか知ろう（1時間）		
1時 課題設定	<p>随筆とは何かを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの書く学習を振り返り、「随筆」の文章の形を知る。 随筆集を作ることを知る。 文例を読み、書かれている内容や随筆の特徴を読み取る。 書き手のものの見方や考え方を見つねながら再度読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「随筆」の特徴を理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>随筆の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ①出来事や経験を体験的にまとめて描写している。 ②書き手の見方や考え方、生き方が書かれている。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 卒業記念の随筆集を作ることを知り、見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文例を読み、随筆の特徴や文章構成を考えようとしている。アー①【発言】 ○随筆の特徴や文章構成、表現の工夫などについて、気付いたことをまとめている。ウー①【ワークシート】
	自分を見つめ直しながら随筆を書こう（5時間）		
2時 取材	<p>随筆に書くことを見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 随筆テーマを知る。 <p>①自分の考え方が変わった瞬間 ②心に残っているこの人の言葉 ③いかにも自分らしい出来事</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の人柄やそのことを実感した出来事などを書き込んだ「自分マップ」を作る。 題材を決める 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分マップ」を作り、随筆テーマから題材選びをさせる。 相手意識（学級の友達に）、目的意識（自分の考えを伝えること）を確認する。 「私」を見つめ直し、どうして「私」をそう捉えているのか、心に強く残っている出来事や自分の経験と関連付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○出来事や自分の経験を振り返って題材を決め、随筆に書こうとしている。アー②【ワークシート】 ○自分自身を振り返って随筆に書く題材を決めている。イー①【ワークシート】
3時 構成	<p>随筆に書くことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 随筆に書くことをカードにメモし、そのカードを使って文章の構成を組み立てる。 組み立てた表を読み、文章のアウトラインを想定する。 	<ul style="list-style-type: none"> カードにはポイントになることだけを書き、文章で詳しく書かないようにさせる。 自分の伝えたいことが明確になる文章の構成を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○組み立てた表を作成し、書こうとする文章を想定している。イー②【組み立て表】
4時 記述	<p>本時 随筆を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取材メモを基に、これから書く随筆の見通しをもつ。 出来事や経験、自分の考えを明確にして随筆を書く。 書いた随筆をグループで読み合い、感想や意見を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 随筆集を作ることを確認し、目的意識と相手意識をもたせる。 5W1Hを押さえ、会話文や比喩なども用いて出来事や経験を正確に書かせる。 その出来事や経験を通して気付いた自分の新たな考えや、自分にとっての意味に触れさせる。 読み合う時間では、相手の随筆について文章の曖昧な点を付箋に書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○出来事や経験を他の人に分かるように描写したり、自分のものの見方や生き方などに触れて書いたりしている。イー③【ノート】

	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	○評価【評価方法】
5 時 推 敲	書いた随筆を推敲し清書する。 ・チェックシートを参考にして、自分が書いた随筆の下書きに加筆修正を加える。 ・随筆を清書し、仕上げる。	・表記上の誤りがないか確認させる。 ・①出来事や経験が分かりにくくないか、②書き手（自分）のものが見方が表れているか、の2点を意識して文章を修正させる。 ・自分の伝えたいことが、相手に伝わる文になっているか考えながら清書させる。	○書いた随筆を読み返して、文章の構成や表現の曖昧さを確認し書き直している。 イー④【ノート】 ○随筆の様式に沿って文章を書いている。 ウー②【随筆の原稿】
6 時 交 流	卒業記念の随筆集を読み合い、自分と友達の見方や考え方の違いを知ろう（1時間）		
	随筆を読み合う。 ・全員の随筆を集めた「卒業記念の随筆集」を作る。 ・友達の随筆を読み、読んだ感想を付箋に書いて渡す。	・友達が出来事や経験を通してどのような見方や考え方をもってしているか考えながら読ませる。 ・自分と友達の見方や考え方の違いを意識して読ませる。	○書いた文を読み返したり友達と読み合ったりしながら自分の考えを深めようとしている。 アー③【付箋】

6 本時（全6時間中 第4時間目）

（1）本時の目標

構成にしたがって、様子や出来事を描写したり、出来事や体験を通して考えたことを書いたりするなど表現の工夫をし、自分のものの見方を深めることができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準【評価方法】
1 本時の流れを知る。	・随筆集を作ることを確認し、目的意識と相手意識をもたせる。	
自分の考えを深めるために、経験・出来事やそのことを通して学んだことをどのように書いたらよいだろう		
2 随筆の見直しをもつ。 ・組み立て表をよく読む。 ・これから書こうとしている随筆のアウトラインを描く。	・随筆に書こうとしていることを言わせ、文章の構成を確認させる。 ・出来事や経験を描写すること、見方や考え方に触れて書くことを確認させる。	
3 随筆を書く。 ・出来事や経験が、他の人にも分かるように描写できているか考えながら書く。 ・自分のものの見方や考え方に触れて書く。	・5W1Hを押さえ、会話文や比喻なども用いて出来事や経験を正確に書かせる。 ・その出来事や経験を通して気付いた自分の新たな考えや、自分の生き方などに触れさせる。	○出来事や経験を他の人に分かるように描写したり、自分のものの見方や生き方などに触れて書いたりしている。 イー③【ノート】

学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準【評価方法】
<p>4 グループで読み合い感想や意見を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書いた随筆をグループで順番に読み合う。 友達の随筆で良いところや分かりにくいところを付箋に書いて渡す。 <p>5 全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達から感想や意見をもらい、気が付いたことを発表する。 <p>6 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達がどのような出来事や経験をして、どのようなことを考えたのかをつかみながら随筆を読み、意見を言い合う。 相手の随筆について、状況が伝わる表現や分かりにくいところを付箋に書かせる。 付箋に書いたことは読んでから渡すように確認させる。 自分と友達の感じ方の違いを見付けて発言させる。 板書を参考にして、本時の課題を達成できたかどうか確認する。 	

(3) 板書計画

○随筆を読み合う

△グループで読み合おう

①書き手 書いた随筆を読んで聞かせる。

②聞き手 どんな出来事や経験をしたのか、相手がそこからどう考えたのか、を考えながら聞く。

③友達の随筆を聞いて、状況が分かりやすいところ、分かりにくかったところ、を付せんに書き、読んで伝える。

書く時間 二十分

○随筆を書く

(これまでの随筆の学習をまとめた模造紙)

☆卒業記念の随筆集を作る

①随筆とは…

②自分を見つめ直すとは…

③書くことを組み立てる
出来事や経験↓他の人に分かるように書く
考え
↓自分のものの見方や考え方にふれて書く

「随筆を書く」自分を見つめ直して

自分の考えを深めるために、経験・出来事やそのことを通して学んだことをどのように書いたらよいだろう